

## (1) 地区別計画とは

地区別計画は、区内12地区を単位として、地域の人材や資源を生かした身近な支えあい活動を盛り込んだ計画です。

## (2) 地区別計画の作り方

地区懇談会での意見、基礎データや区民アンケートの結果などを基に、各地区で連合町内会自治会を中心に、地区社会福祉協議会（→用語解説）、地区民生委員児童委員協議会などで検討し、各団体がそれぞれ実践できること、必要なことなどを出し合いました。

さらに、これを地区の中で共有し、地区での合意を経て、地区別計画としてまとめました。

また、地区別計画策定のためには、各団体間の調整や行政との役割分担の明確化などが必要であるため、福祉保健センター職員による地区支援チームを設置し、地区の皆さんによる計画づくりを支援しました。

### <地区別計画の内容>

#### 〇〇地区 地域福祉保健計画

##### 1. 地区の概況

人口・世帯の状況など地区のデータ

##### 2. 地区の主な意見

地区懇談会の投票で優先的に取り組むとされた主な内容

ここには地区懇談会や基礎データなどの結果をもとに地区の概況や課題をまとめました。



##### 3. 地区で考えた地区の取組み

2の課題などを参考にして、地区の関係団体などで検討し、具体的に取り組むこと

- ・現在の活動の推進
- ・新たに地域で取り組むこと

自治会などの地域の組織の皆さんを中心に地域で「実践できること」「必要なこと」などを盛り込んでいるよ！  
ひとり一人がすぐできることからまちづくりの第一歩を踏み出してみよう！



### <地区区分>



## 地区で考えた地区の取組み

### 1 阿久和北部地区

- 1 地区内の公園で体操を実施
- 2 定年後の男性を地域の活動に取り込む
- 3 地区内に子どもからお年寄りまでの交流の場を作る

### 2 阿久和南部地区

#### つながりのあるまちにしてい

- 1 顔の見える関係を広げていく
- 2 気軽に集まれる場を地域につくっていく
- 3 各団体の活動を知り合い、お互いにできることを助け合っていく

### 3 三ツ境地区

- 1 防犯ステーションを中心にした取組み
- 2 たまり場づくり
- 3 老人会の加入を柔軟に
- 4 現在の取組みを拡充しよう

### 4 瀬谷第一地区

地区内の少しの協働によって、地域が変わる！

#### あいさつから始まる信頼のあるまちづくり

- 1 「町ぐるみ健康づくり活動」の推進
- 2 「高齢者・障害者支援」の推進
- 3 「情報の共有と場づくり」

### 5 本郷地区

- 1 現在の取組みを拡充しよう
- 2 地域の顔見知りを増やそう
- 3 気軽に利用できる場を増やそう

### 6 瀬谷北部地区

- 1 交流・啓発：イベントや健康講座の開催
- 2 高齢者への支援：集まれる場づくり  
現在の取組みの推進
- 3 子育て支援：子育ておかあさんの集い
- 4 ボランティア活動：チケット制導入の検討
- 5 災害対策：救援体制の整備

### 7 瀬谷第二地区

#### 安全、安心、心豊かに暮らせるまち

- 1 災害対策の向上
- 2 まちの安全を守る活動
- 3 交流の場づくり
- 4 子ども・青少年の見守り
- 5 地域活動への参加
- 6 ボランティア活動の拡充

### 8 細谷戸地区

- 1 地域の交流促進
- 2 高齢者への支援
- 3 防犯・防災対策
- 4 ゴミ対策

### 9 瀬谷第四地区

- 1 地域活動：健康づくり、ごみ対策など
- 2 子育て世代の交流：遊びの伝承、紙芝居
- 3 高齢者の生きがいづくり：教養講座
- 4 現在の取組みの推進：地域デイ、配食

### 10 南瀬谷地区

- 1 総合的な福祉拠点の確保
- 2 子どもの健全な遊び場確保
- 3 健康クラブ、お助けグループの拡充
- 4 災害対策・防災力の向上
- 5 地区社会福祉協議会の強化

### 11 宮沢地区

- 1 災害対策（特に弱者の救援対策）
  - 2 地域で健康づくりを進める
  - 3 地域サロンの開催
- <長期課題> 活動拠点となる多目的施設の整備

### 12 相沢地区

- 1 世代を超えた交流の場づくり
- 2 高齢者の介護予防
- 3 ひとり暮らし高齢者への支援
- 4 地域の団体の活性化



## 1 地区の概況

- ・瀬谷区の南東部にある阿久和エリアのうち、北側の部分が阿久和北部地区です。
- ・家族構成では、区平均と比べて単身世帯の比率が少なく、夫婦と子どもの世帯が多くなっています。
- ・一戸建て住宅の多い地域で、マンションにはひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が多く住んでいます。10年以上居住されている方が、区平均よりやや高くなっています。11自治会で構成されています。
- ・近くに長屋門公園もあり、住民が参加しやすいイベントも多く行われています。

## 2 地区の主な意見

### 子どもの居場所づくり

- ・子育てで悩んでいる方が、どうしたら支援活動の場に来てもらえるか、課題です。
- ・子どもの活動は、まず参加することが大切です。
- ・地域で活動する「阿久和キッズ」の活動を続けて欲しい。
- ・子どもが充実感を得られる機会が必要です。
- ・親の子どもへの躰などの学習会が必要ではないか。
- ・中高生が生き生きできるような、日ごろの活動を模索したい。
- ・世田谷区の羽根木プレイパークのような活動に制限のない場がない。



### 定年後の男性の参加

- ・男性は組織作りのノウハウがあります。地域には、寺子屋のような活動などに夢を描いている人がいます。活かす場が必要です。
- ・必要とされているという充実感が活動につながります。
- ・「ボランティア」に対する認識の違いから、参加に抵抗があるようです。
- ・定年後、活躍できる場が望まれます。

### 高齢者の出かける場

- ・老人クラブの活性化について、検討が必要です。
- ・知識や得意分野を活かせる場をつくり、技能・技術を世代間で教えあうことが有用ではないでしょうか。
- ・最初は大きいところではなく、小さな集まりから得意なことが出てくれば良いと思います。

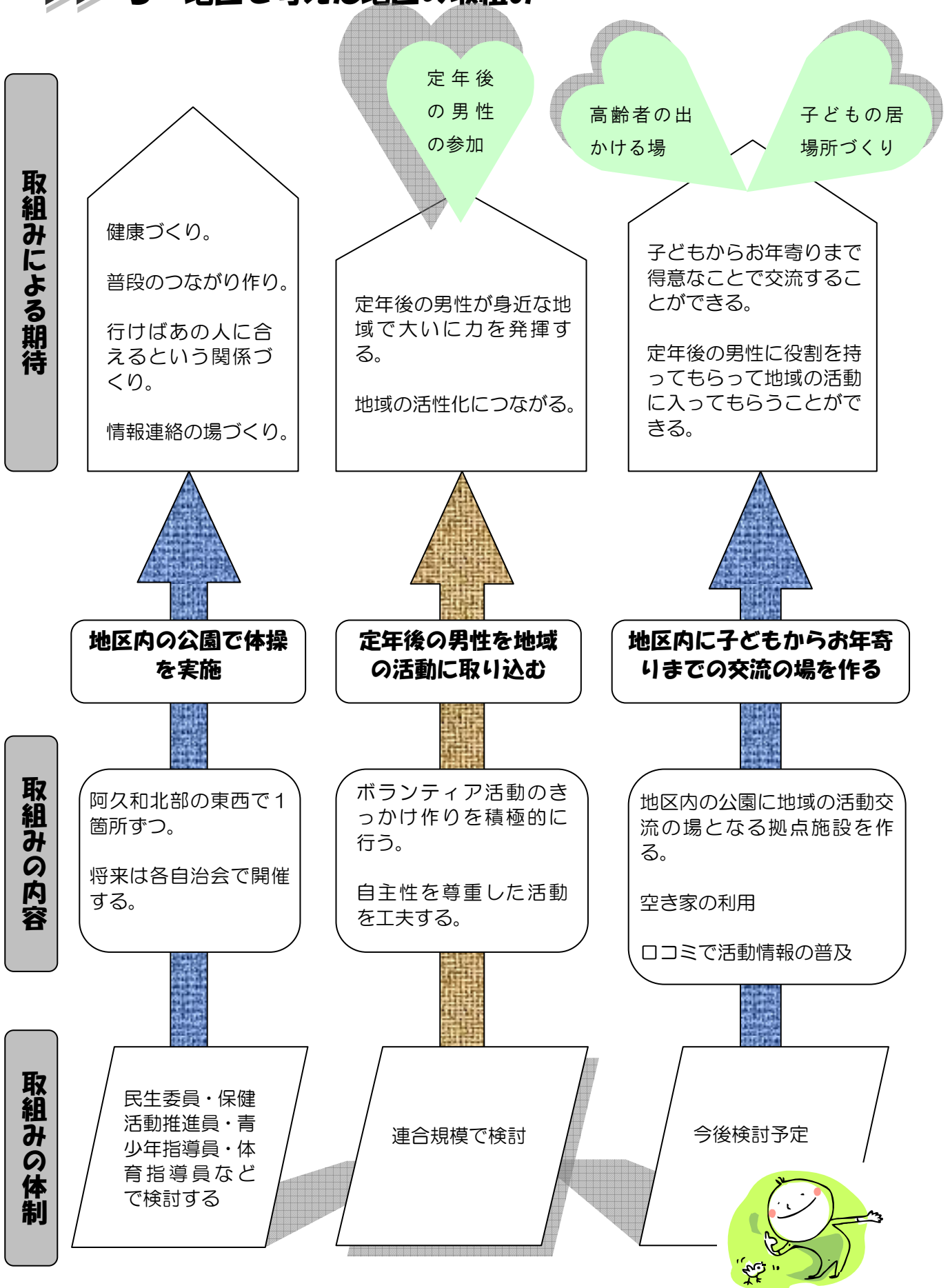
### 地域拠点の整備

- ・お年寄りには歩くことが大変です。小さい地区の拠点が必要です。
- ・隣近所の交流といっても、場所がないことが支障になっています。気軽に集まれる場所があることが、住民活動の原点です。会場使用料がかかるのは大変です。

### 地域の交流

- ・地域の人と一緒にボランティアをやっているので、近所づきあいもうまくいっています。
- ・近所づきあいがうまくいっていれば、地域の行事などにも参加しやすくなります。
- ・地域で催される行事への呼びかけは口コミが一番有用です。
- ・外国籍の方にも、付き合いの中で口頭で説明するとわかりやすい。
- ・近所づきあいが今の時代は難しいが、年をとると一人では生きられません。

### ▶▶ 3 地区で考えた地区の取組み





### ▶▶ 1 地区の概況

- ・瀬谷区のうち、3番目に人口の多い地区です。
- ・瀬谷区の南部に位置し、旭区や泉区にも隣接しています。
- ・地区の西側と北東部に集合住宅が多くあります。
- ・年齢構成では、区平均と比べ15歳未満の子どもの割合が高く、家族構成でも単身の世帯が少なく、夫婦と子ども世帯の割合が区平均より高くなっています。
- ・畑や緑が豊かな公園も多い地区です。

### ▶▶ 2 地区の主な意見

#### 高齢者の集まる場（高齢者の支援）

- ・家族はいるが、一日中ひとりでいる高齢者もいます。そういう人たちの集まる場所がない。
- ・自分で集まれる人は集まっています。そのためにも、身近に集まれる場所があることが望まれます。



#### 高齢者の力の活用（高齢者の支援）

- ・元気な高齢者が力を発揮できる場がない。
- ・定年後、活躍できる場が望まれます。

#### 自治会役員の担い手（高齢者の支援）

- ・高齢になって、自治会の役員を受けることが難しい人が出ています。

#### 地域交流（子育て）

- ・子供会はあるが、子供会活動が縮小しています。
- ・乳児と親の行き場はあるが、小中学生の集まる場がありません。
- ・大久保原公園は、年2回ぐらいの草刈りで、草が繁っていて、安心して遊べない。
- ・安心して遊べる場があれば、みんな集まってきます。

#### 担い手の育成

- ・活動のリーダーが必要ですが、引き受けてくれる人がいない。
- ・親から子へ。身近なところでボランティアを体験する機会が必要です。
- ・子育て活動やボランティア活動を、若い人にも声をかけて、共に活動できるようにしたい。
- ・参加者が担い手になる。若い人に、楽しみながら参加してもらうことが必要です。

### 3 地区で考えた地区の取組み

目  
標

つながりのあるまちにしていく…

- ★ 顔の見える関係を広げていく。
- ★ 気軽に集まれる場を地域につくっていく。
- ★ 各団体の活動を知り合い  
お互いにできることを助け合っていく。

取  
組  
み

みんなが交流できる  
場づくり

- ・ 世代間の交流ができる。
- ・ 子どもたちが安心して遊べる。
- ・ 元気な高齢者が地域の中で活躍できる場がある。
- ・ 地域の中で集まりやすい場所に集う。  
(自治会館や公園)

\*南部全体として、一つの公園をモデル的に取組み、目標達成にむけ、みんなで関わっていく。

モデル図

取  
組  
み

大久保原公園をみんなが集まる  
交流の場にしよう！

安心して集える

誰もが楽しめる  
イベントを開催

きれいな環境

内  
容

★地域で子どもを見守る人を今以上に増やしていく。

★子どもからお年寄りまで楽しめるイベントを企画し、開催する。

★きれいな公園にするために掃除、草刈りをする。

実  
施  
主  
体

阿久和南部連合 15 の自治会の呼びかけにより、地域の各団体・グループが力を出し合い、活動する。



## ▶▶ 1 地区の概況

- ・相鉄線三ツ境駅周辺の地区で、区役所などの公共機関も隣接しています。
- ・三ツ境連合自治会には19の自治会があります。
- ・年齢構成は、区平均と比べて75歳以上の高齢者層が多く、15歳未満の子ども層が少なくなっています。
- ・家族構成では、区平均と比べて、単身世帯の比率が多くなっています。
- ・駅の周辺には単身者用マンションが多く、ひとり暮らしの世帯も多い地区です。

## ▶▶ 2 地区の主な意見

### 高齢者への地域の見守り・支援

- ・地域の中で、独居の高齢者の把握ができるが良い。
- ・高齢者の中には、人に助けを求めたり、何かをしてもらうことをいやがる人がいます。自然な形で、隣近所が支援を行えることが望めます。
- ・老人会のない町内会もあり、老人会に加入したくてもできない人がいます。

### 子どもの居場所

- ・子ども達が安心して遊べる場を地域でつくり、みんなで見守っていきたい。

### 障害児・者への地域の支援

- ・「お手伝いしましょうか」の声かけも、あいさつと同じようにすることが大切です。声をかける側もかけていいのか、とまどっていることがあります。
- ・地域の手助けを受けるためには、地域の中心となる組織が必要です。

### 地域活動・交流の活性化

- ・地域活動の活性化には、プライバシーのことは踏まえつつも、情報の共有化を図ることが大切です。
- ・三ツ境地区には、活動団体が多くあります。会の活動状況がわかるようにして、参加者を増やしたい。
- ・活動の活性化のために、男性が積極的に参加してもらうことが必要です。そのためには、個別のプログラムが必要です。

### 福祉・防災・防犯情報の共有

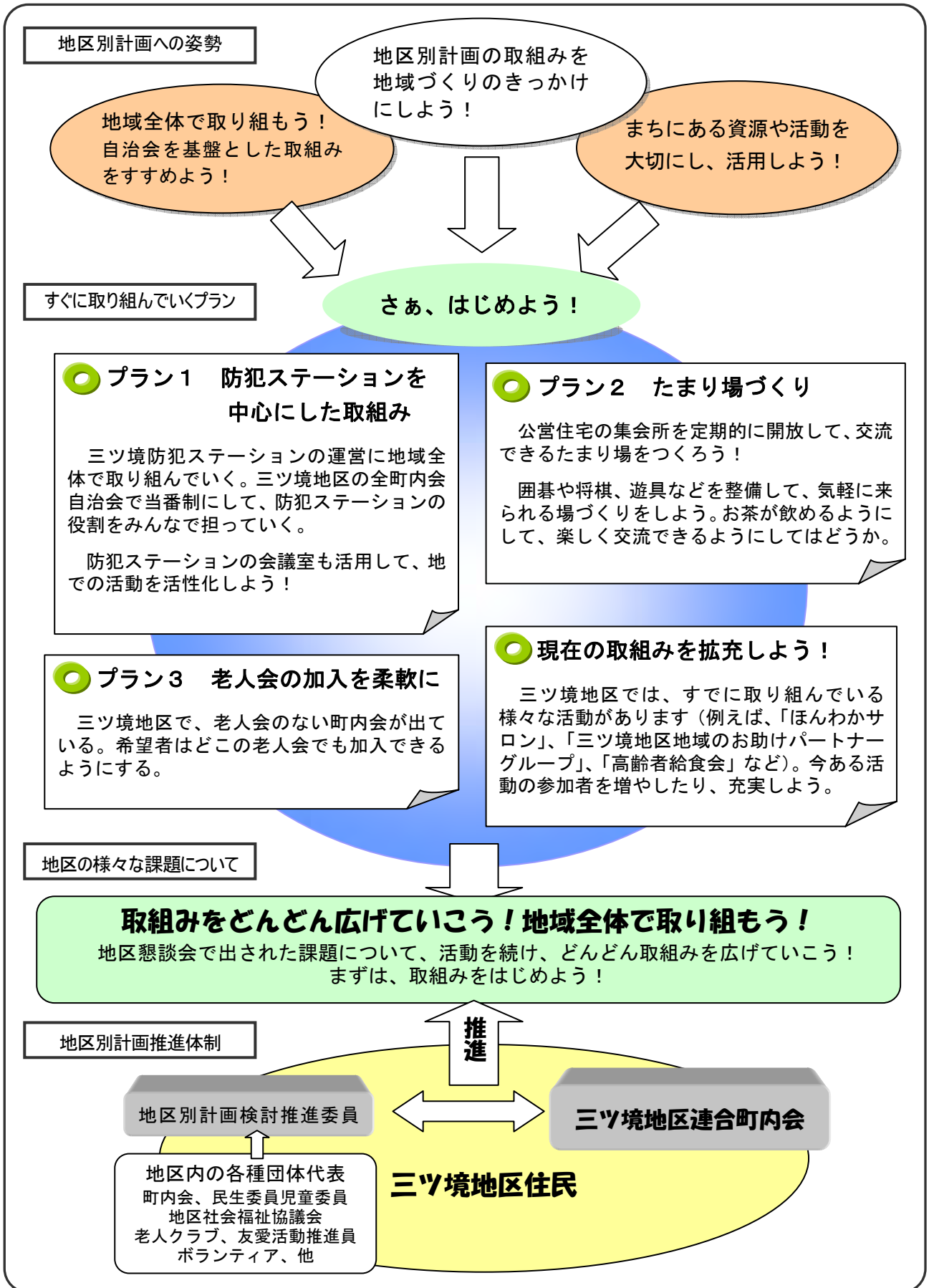
- ・子どもを守るための具体策が必要です。地域全体での連携が問われています。
- ・防災訓練に参加しない、できない人たちにも地域防災の内容や段取りを伝えることが必要です。

### 防犯まちづくり

- ・防犯まちづくりとして、学校の帰り道の安全対策。
- ・防犯灯を増やして欲しい。



### 3 地区で考えた地区の取組み







## 1 地区の概況

- ・相鉄線瀬谷駅周辺の地区で、面積が小さいため、人口は区内全地区のうち少ない方から二番目です。しかし、最近は集合住宅が増えたため、人口や駅利用者も多くなっています。
- ・家族構成では、単身世帯の割合が、区内12地区中一番高くなっています。
- ・地区の人口の半数以上が瀬谷四丁目に住んでいます。
- ・年齢構成では、区平均と比べ、やや15～64歳層が多くなっています。

## 2 地区の主な意見

### 地域のつながりづくり

- ・声かけが難しい時代です。子ども達も、知らない人に声をかけられたら逃げるといった教育を受けています。町のなかで、あいさつを交わすことが難しくなっています。
- ・あいさつを交わす関係から、人のつながりは広がっていきます。
- ・家庭から地域、そして社会へつながっていきます。



### 自分から参加する活動づくり

- ・強制されるのではなく、自分から参加する活動づくりが大切です。
- ・高齢者の健康づくり促進のため、高齢者自身が自ら動き、外に出ていく魅力ある活動を考えることが必要です。
- ・高齢者は近所のつながりから必要な情報を収集しています。
- ・町内会未加入者にも町内会加入を呼びかけることが必要です。

### 場づくり

- ・情報を伝えることは難しい。情報がありすぎて、伝わらないことがあります。
- ・グループ活動の情報提供をして、集まれる場所や活動の情報提供をして、参加者が集まりやすくすることが必要です。
- ・プライバシーの保護で、手助けしたくても必要としている人の情報が手に入らないことがあります。
- ・空き家・空き店舗の活用による身近な場づくりが必要です。

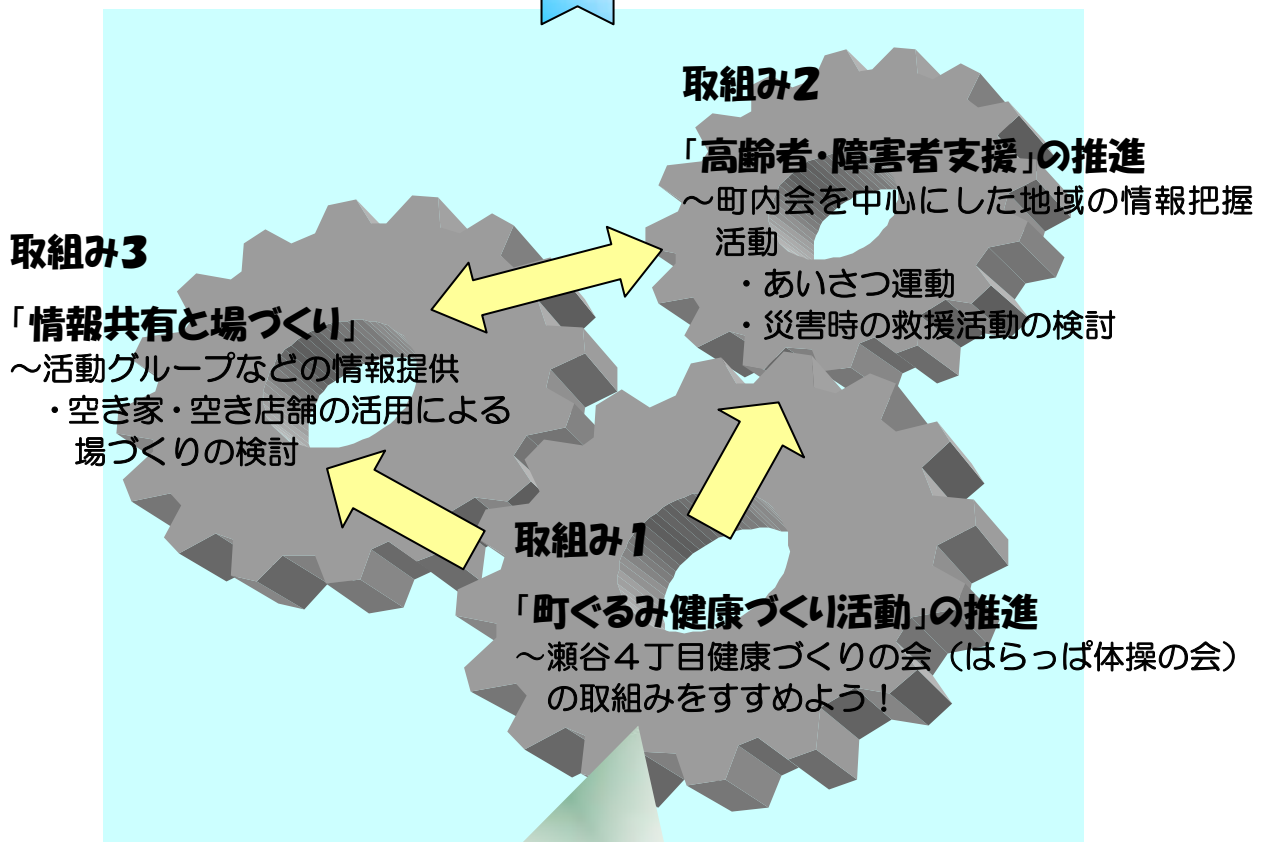
### 高齢者や障害者の支援（災害対策）

- ・緊急時の災害弱者への情報提供の仕組みがありません。
- ・向こう三軒両隣の輪が大切です。プライバシーが守れても、人の命が守れなければ話にならない。
- ・高齢者については、単位町内会単位で把握することが必要です。

### ▶▶ 3 地区で考えた地区の取組み

地区の目標！

地域内の少しの協働によって、地域が変わる！  
あいさつから始まる信頼のあるまちづくり  
(人間としてはじめにあいさつあり)





## 1 地区の概況

- ・瀬谷区平均に比べて、15～64歳の年代の比率が高くなっています。
- ・本郷二丁目は人口増加率が高く、5年未満の居住年数の人が4割を占め、高齢者の割合が低く、子どもの割合が高くなっています。
- ・地区内には、図書館や本郷公園、瀬谷中央公園、高齢者グループホーム等があります。

## 2 地区の主な意見

### 誰でも気軽に利用できる場づくり

- ・本郷地区には近くに集まれる場所が少ないです。
- ・地区内に本郷公園など公共施設がありますが、規制のため使いにくさがあります。既存施設の有効利用が望まれます。
- ・自由に予約なしで使える施設、広場があると利用しやすいです。
- ・地区内には空き家が多いので、防犯・防災上の問題からも有効利用が望まれます。

### 高齢者の支援

- ・一人暮らし高齢者は近所との付き合いが薄く把握しにくいので、災害時の対応について不安に感じています。
- ・老人クラブ未加入者が多く、仲間づくりが必要です。
- ・外出しにくい高齢者への対応が必要です。

### 地域の交流

- ・新住民が増えていますが、地域の行事などに参加する人が少ないです。

### 健康づくり

- ・健康増進のための施設が近くにありません。気軽に参加できる健康づくりの会が望まれています。
- ・高齢者の健康に関する情報が不足しています。

### 環境・ゴミ問題

- ・ゴミ捨てのマナーが悪く、ごみの分別収集開始により、混乱が考えられます。



## 3 地区で考えた地区の取組み

### 1 現在の取組みを推進しよう

居住 10 年未満の人が 4 割を占め、近所でも顔がわからない人が多い。

- ★情報の伝達方法を工夫する。
- ★活動の担い手を増やす。特に若い人に参加してもらえるように工夫する。

定年退職した男性が増えているが、地域の活動に参加する人は少ない。

分野	事業	実施主体
広報活動	広報誌の発行	自治会、地区社協
研修・講座の開催	高齢者向け講座	地区社協
交流・啓発事業	敬老福祉大会	連合、地区社協
	レクリエーション大会	連合
	文化祭	連合
	高齢者カラオケ大会	地区社協、老人クラブ
子育て支援	子育てお母さんの集い	民生委員・児童委員
高齢者支援	一人暮らし高齢者会食会	民生委員
	配食サービス	かしわ会
	地域のお助けパートナー	本郷第7自治会
	高齢者地域ミニデイサービス	にここにこ会
健康づくり	町ぐるみ健康づくり	本郷第1自治会

### 2 地域の顔見知りを増やそう

- ★定年になった人に地域の活動に参加してもらおうようにする。
- ★地域の行事への参加を増やす。

地域の活動の参加者が減っている。

ボランティアの担い手が少ない。

長く活動しているが運営方法などに支障が生じてきた。

### 3 気軽に利用できる場を増やそう

- ★既存施設をもっと活用したい。
- ★みんなで集まれる場づくりを検討する。

第一自治会以外自治会館がない。

地区には図書館、公園、小学校など公共施設がある。



## ▶▶ 1 地区の概況

- ・長く住んでいる住民が多く一戸建て住宅が多い地区でしたが、市営上瀬谷住宅や新興住宅街ができたことで転入者が急増しています。
- ・15歳未満の割合が区内で一番高く、65歳以上の割合が区内で一番低いが、町ごとに状況が大きく異なっています。
- ・公共機関は地区の南側に集中していて、北東部には企業の倉庫等の工業エリアがあります。古くからの畑も多く残っている地域です。

## ▶▶ 2 地区の主な意見

### 高齢者の支援

- ・高齢者の集まる場が地域に少なく、閉じこもりがちな高齢者が外出する機会が望まれています。
- ・転入者が多く、高齢者等の情報把握がしにくくなっています。
- ・呼び寄せた老親が地域になじめるような工夫が必要です。
- ・自治会館や集会所は、交通が不便なところもあり、歩いて行ける範囲に集まれる場所が必要とされています。
- ・ふらっと気兼ねなく、いつでも自由に利用できる場があると便利です。
- ・介護予防のため、定年退職後の人などが活動できるグループが必要です。

### 地域の交流

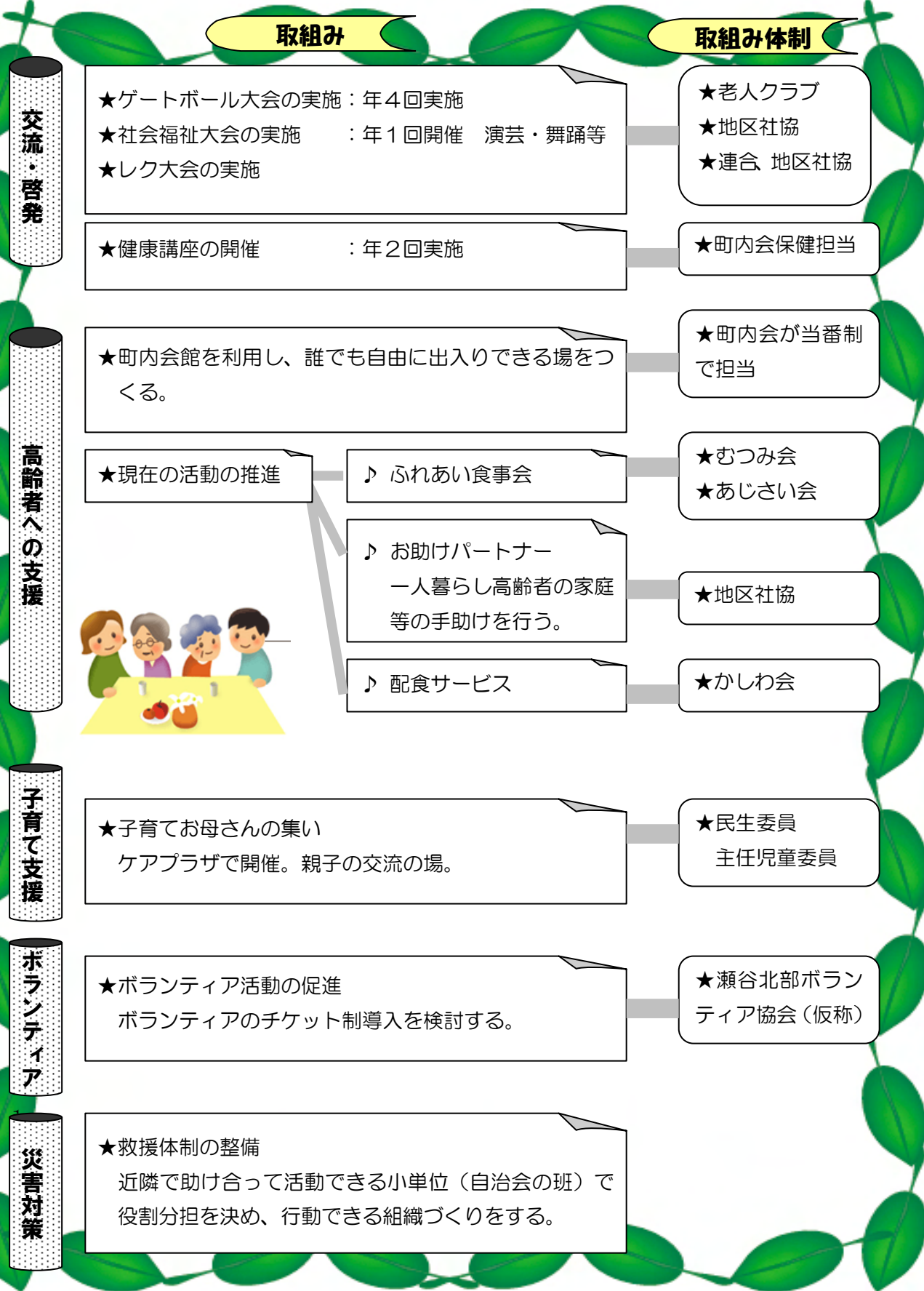
- ・転入者が多いため、新住民と長く住んでいる住民との交流が望めます。
- ・自治会ができて間もない場合、充分コミュニケーションがとれていないことがあります。

### 災害対策

- ・高齢者や障害者など災害弱者に対して救援体制がないため、早急に整備する必要があります。



### 3 地区で考えた地区の取組み





## 1 地区の概況

- ・瀬谷区の南西部に位置し、境川を挟んで西隣が大和市となります。12地区中、人口・世帯数がもっとも多く、23の自治会があります。
- ・3区分の年齢構成は、区平均とほぼ同じですが、町によっては高齢化率が2割近くに達するなど、地区内でも差があります。
- ・高齢者対象の活動とあわせ、子育て支援活動が活発に行われています。また、お助けパートナーグループは、2団体が活動を行っています。

## 2 地区の主な意見

### 子育て家庭の見守り

- ・非行の低年齢化が進み、家庭の絆が弱まっています。地域での見守り、子育てへの支援や助言が必要とされます。
- ・子育てがうまくできない母親や自覚が足りない母親が増えています。母親同士で集まる機会、学習や話し合いの場が必要です。

### 高齢者の社会参加

- ・一人暮らしの高齢者の中には外に出たがらない人、コミュニケーションが苦手な人もいます。高齢者の社会参加をどう進めるかが問題です。
- ・地域デイサービスなどに車椅子の方や足の不自由な方が参加できるよう、送迎サービスの提供などが望まれます。

### ボランティア活動

- ・ボランティアのニーズが高まり、しかも多様化している一方で、担い手が高齢化し、活動できる人が少なくなっています。ボランティア活動をさらにPRし、より理解を得ることが必要です。もっと若い世代を含んだ幅広い世代の参加が求められます。

### 地域の交流

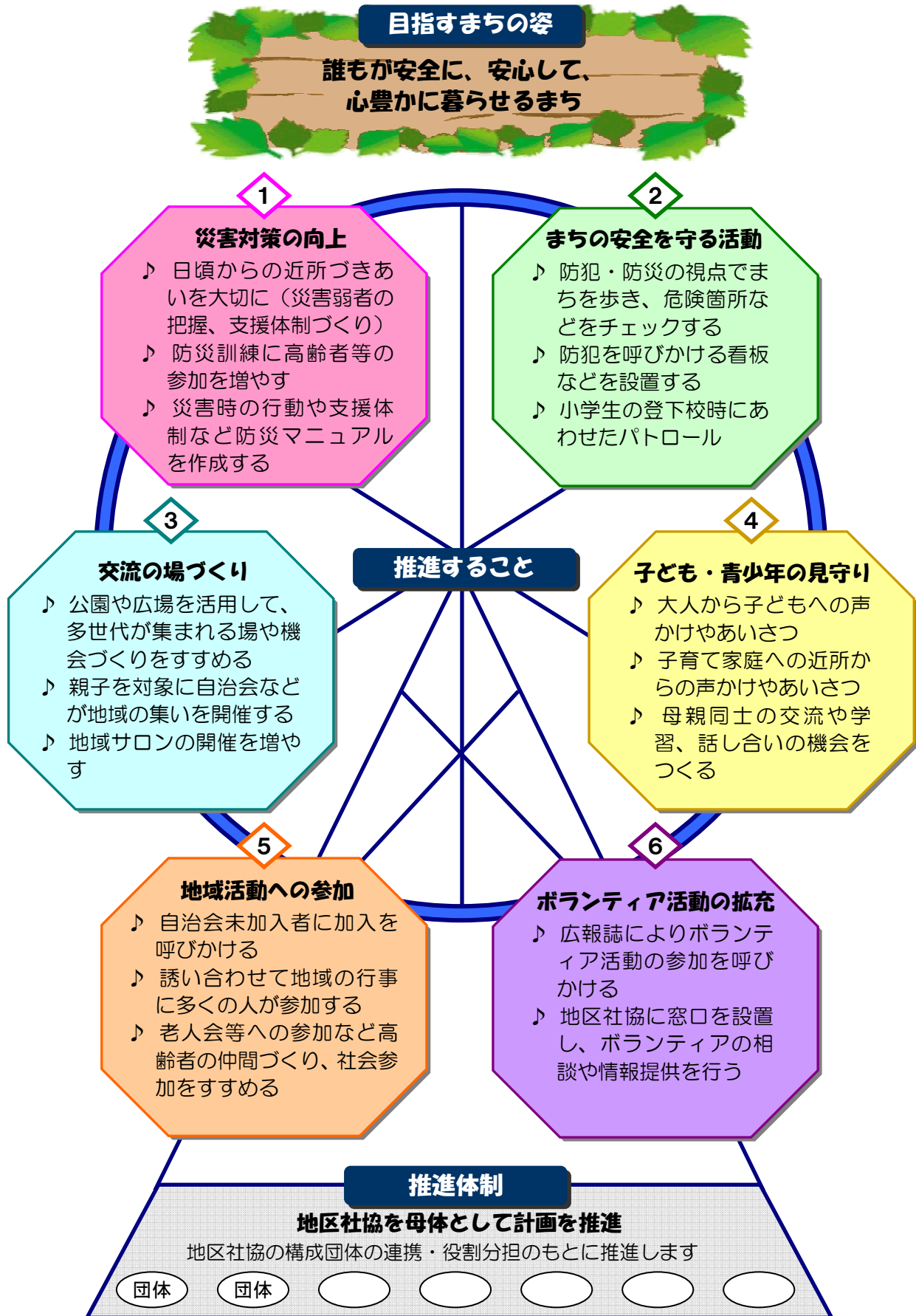
- ・高齢者が日常生活で困った時など、近所同士の助け合いが大切です。連合自治会での活発な活動が効果的です。
- ・瀬谷第二地区には地域で高齢者や子どもを見守る風土があります。世代間交流の機会は数多く持たれていますが、さらに継続することが望まれます。

### 災害対策

- ・地域に住んでいる災害要支援者の人数や生活の場を把握しにくいと、災害発生時には対応できないことが考えられます。
- ・防災訓練に高齢者の参加が少なく、一時避難所まで行けるような避難訓練が必要です。



### ▶▶ 3 地区で考えた地区の取組み







## 1 地区の概況

- ・年齢構成は65歳以上の割合が区平均に比べ非常に高く、少子高齢化の典型的な地域になっています。
- ・家族構成は、区平均と比べて単身、夫婦のみ、ひとり親と子世帯が多くなっています。
- ・県営細谷戸団地が中心の連合自治会で、諸行事、一斉清掃など行動力、結束力が比較的強いです。

## 2 地区の主な意見

### 高齢者への支援

- ・一人暮らし高齢者が多く、高齢者同士や近隣者との交流が希薄で引きこもり傾向にあります。そのため、状況把握がしにくく、緊急時の連絡方法などの心配があります。
- ・老人会の活動を行っても参加者が少なくなっています。

### 地域の交流

- ・運動会や盆踊りなどの行事は参加者が特定の人に偏っています。また、世代間交流の場も少ないです。

### 子どもたちの行動・居場所づくり

- ・小中高校生が道路等で多数集まり、騒いだり夜遅くまでたむろしています。夜回りや声かけなどを行っていますが対応方法がわからず困っています。

### 防犯・防災対策

- ・高齢者や障害者等の災害弱者の把握が不十分で災害時の救援や避難、連絡など対応に問題があります。
- ・地区の避難場所が遠いため、訓練が必要です。

### ゴミ対策

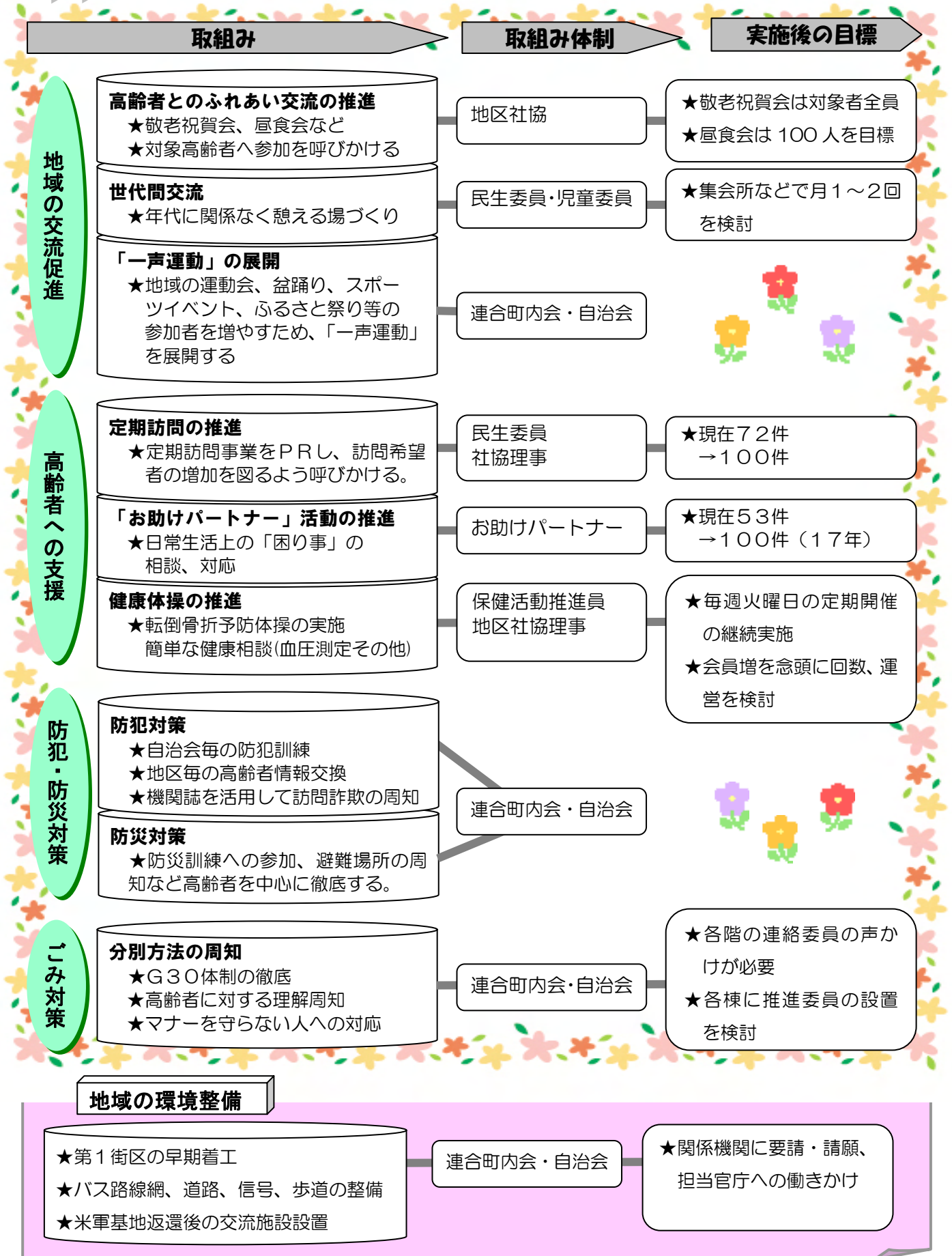
- ・ゴミの出し方が悪く、分別収集の対応に不安がある。特に高齢者、若い人、外国籍の人への趣旨の徹底が課題です。

### 地域の環境整備

- ・第1街区の未着工、バス交通網、道路・信号機・歩道の整備、米軍基地返還後の交流施設の設置が望まれます。



### 3 地区で考えた地区の取組み





## 1 地区の概況

- ・相鉄線三ツ境駅周辺の地区で、線路の南側・北側の両方がこの地区のエリアです。南側には集合住宅、北側は一戸建て住宅が多くあります。
- ・3区分の年齢構成は、区平均とほぼ同じですが、東野台は高齢化が進んでいます。
- ・エリア内に区役所、福祉保健活動拠点などの公共機関や養護学校小中学校も多くあり、福祉保健団体の活動が活発に行われています。

## 2 地区の主な意見

### 高齢者の生きがいづくり

- ・退職後の男性は、地域の中に出かけていくきっかけを見つけにくいようです。男性向けのスポーツやボランティアの場の提供が必要です。
- ・人気のある生涯学習の講座（「平家物語」を読む会のような）を多く開催してほしい。パソコン教室なども交流の場になっています。

### 子育て世代の交流

- ・子どもも減っているのに、学校等の公の建物の開放を考えてほしいです。
- ・子どもの溜まり場については、地域の協力が必要で、連合自治会などで検討することが必要です。
- ・中学生前くらいまでは組織化ができますが、中学生になると子供会を抜けるので把握が難しくなります。

### 障害者支援

- ・障害の方に対するバリアがあるのではないのでしょうか。
- ・子どものことで出かける機会が多いといろいろな人との接点も多く、生きがいになります。
- ・障害のある子と生きることで親として、人生が充実する部分もあります。

### 地域の交流

- ・ゴミ出しが顔合わせの場として一番機能しています。高齢者や障害者に対する援助が必要です。
- ・パトロールも学校、民生委員、自治会がやり、横の連絡がありません。全体をまとめる機能が必要です。また、地域のつながりが育つことは災害時にも役立ちます。

### 地域活動・ボランティア活動

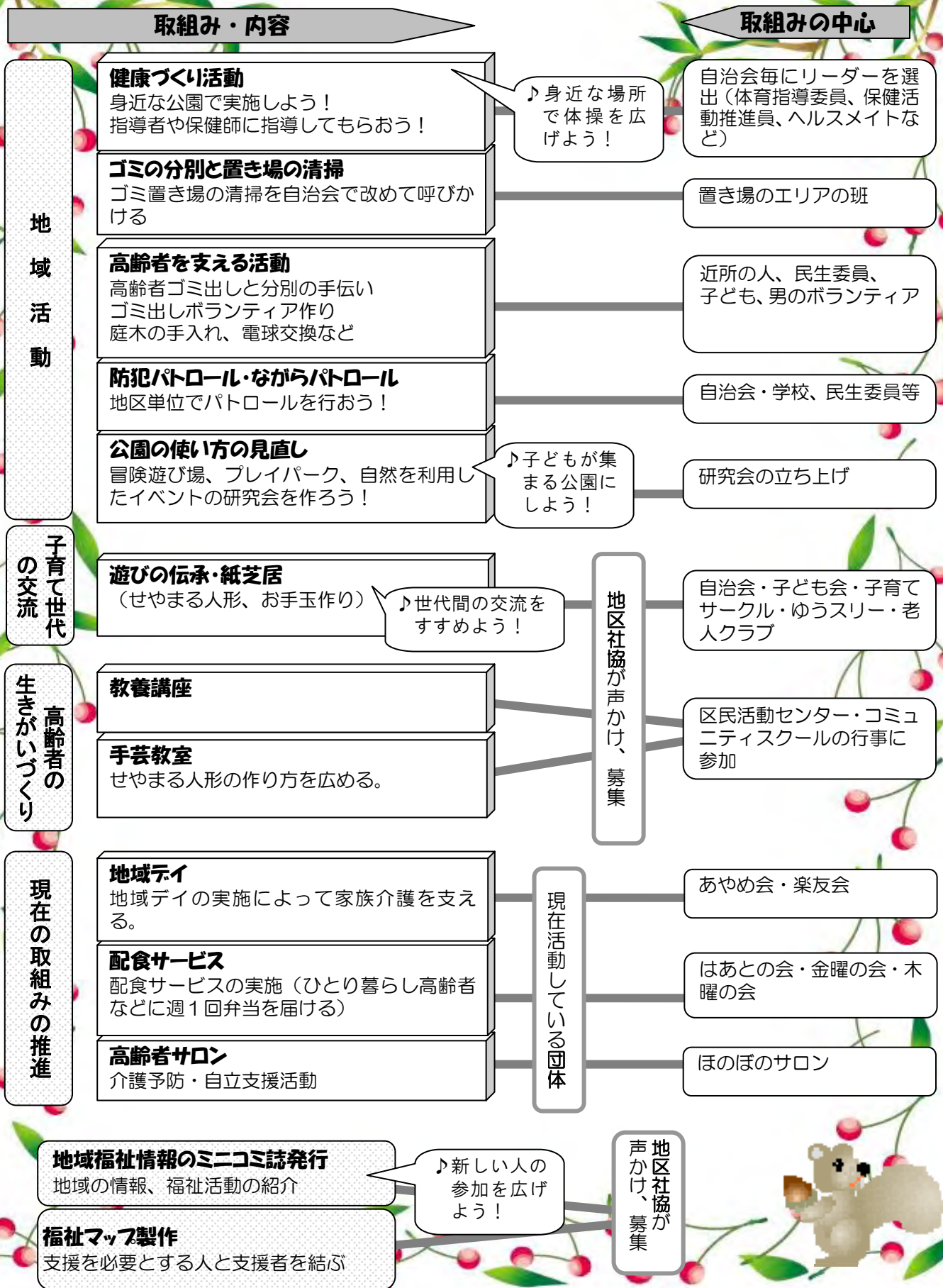
- ・一人でいろいろなボランティア活動をするのは大変なので、できるだけ多くの人で活動することが望ましいです。
- ・ボランティアといっただけでなく、きめ細かくテーマに沿った限定的なボランティアを掘り起こすことが必要です。
- ・各団体・組織がスムーズに役割分担できるような統括と交流を持つ必要があります。

### サービスの充実

- ・サービスは、それぞれの人にあったサービスの充実に考えてほしい。
- ・介護支援活動を地域で支えるには、時間と相当数の人手が必要です。



### 3 地区で考えた地区の取組み





## 1 地区の概況

- ・区の中央部から南部にわたる細長い地区で、南側は泉区に接しています。人口・世帯数は12地区の平均よりやや少なく、19の自治会があります。
- ・3区分の年齢構成は、15歳未満の割合が12地区で最も低く、65歳以上の割合が2番目に高くなっています。
- ・北側には大きな公営住宅があり、この地域では、65歳以上の単身世帯の割合が高くなっています。
- ・高齢者対象の活動、子育て支援とも活発に行われています。

## 2 地区の主な意見

### 高齢者の地域の見守り

- ・隣近所で声を掛け合う習慣、誘い合える関係など高齢者世帯とのつながりを普段から心がけることが必要です。
- ・地区で活動を行っている組織の担い手不足など人材の確保が課題となっています。

### 子育てへの支援

- ・子どもや青少年の居場所が地域の中に十分にありません。
- ・子どもたちに対して遊びを伝えていくなど世代間での交流を持つことが必要です。

### 地域の拠点づくり

- ・高齢者支援や子育て支援、ボランティア活動など福祉活動の地域の拠点を確保することが必要です。

### 地区社会福祉協議会

- ・ボランティアグループの横の連携を強化し、それぞれの活動を推進していくことが必要です。

### 災害対策

- ・日頃から、災害時に向けた対策、高齢者や障害者に対してどのように支援するかということを考えておくことが必要です。
- ・各自治会単位で防災について対策を立て、地区として共有することが必要です。

### 道路・交通整備

- ・災害時の消防車進入路を確保するために、道路整備が必要です。
- ・南瀬谷バス終点から干池、上ノ原地区へのバス路線の延伸が望まれます。小型バス運行などの工夫や宮沢循環路線など、実現に向けた検討が必要です。



### ▶▶ 3 地区で考えた地区の取組み

みんなで進めよう！

- 1 総合的な福祉拠点の確保
- 2 子どもの健全な遊び場確保
- 3 南瀬谷健康クラブ 南台お助けグループの拡充
- 4 災害対策・防災力の向上
- 5 地区社会福祉協議会の強化

#### 1 総合的な福祉拠点の確保

高齢者が多い地区だから、福祉活動・ボランティアの拠点が必要！

- ♪ 高齢者が多い団地内の集会所フル活用
- ♪ 空き家利用によるたまり場、サロンの開設

#### 2 子どもの健全な遊び場確保

南台子どもの森公園を、子育てグループ、子どもたち、高齢者などの憩いの場、活動の場に！

- ♪ 隣地をふれあい樹林として活用
- ♪ 緑の保全、環境の悪化防止
- ♪ 子どもの自由な遊び場

#### 5 地区社会福祉協議会の強化

地区社協は活動グループの要！  
各グループが横の連絡を密にし、結束しよう！

- ♪ 地域のグループを結集するための協議会の設置

健康クラブ、お助けグループの参加者を増やし、活発な活動を！

- ♪ ウォーキング・軽体操・健康に関する学習会などを実施
- ♪ 活動場所、リーダーの協力
- ♪ 高齢者や障害者への身近なお助けグループの情報共有

#### 3 南瀬谷健康クラブ 南台お助けグループの拡充

自治会ごとに防災対策をすすめ、防災力を向上！

- ♪ 自治会ごとの実情に合わせた防災対策の立案
- ♪ 地域として避難場所の自治会名表示、誘導通路の安全確認など
- ♪ 総合訓練を実施

#### 4 災害対策・防災力の向上



## 1 地区の概況

- ・縦に長い地区で、南側には緑が多く残っています。住宅は地区の北側に集中しており、一戸建てが多く、新築住宅も増えています。10の自治会があります。
- ・3区分の年齢構成は、65歳以上は区平均とほぼ同じですが、その中では75歳以上の人口が多く、15歳未満は少なくなっています。
- ・地区内に特別養護老人ホームと介護老人保健施設、各1箇所の設置があります。また、児童・幼児用公園プールがあります。

## 2 地区の主な意見

### 地域拠点（施設）の整備 ～長期的課題～

- ・地区内に高齢者の集いや子育て支援の拠点となる施設がないので、夏季以外は利用されていない宮沢第二公園のプール管理棟が活用できるよう検討を進める必要があります。
- ・給食会やボランティア活動の拠点として、厨房を備えた施設が望まれます。

### 災害対策

- ・高齢者は多くいるのに、防災訓練への参加者は少ない状況です。また、現在の防災訓練は危機感がなく見直しが必要です。
- ・各町内会で話し合い、高齢者や障害者の災害時の連絡体制や近隣の救援体制を整備する必要があります。
- ・災害対応がマニュアル化されていないため、検討が必要です。

### 高齢者への支援

- ・ひとり暮らしの高齢者や障害者には、家に閉じこもり、地域との交流が持てない人が多くいます。
- ・高齢者の中では役員ができないなどの理由から自治会などに加入していない人が増えており、状況が把握しにくくなっています。
- ・見守りが必要と思われる高齢者に対し、プライバシーへの配慮から定期訪問などの活動が難しくなっています。

### 健康づくり

- ・高齢者の健康維持を目的に、身近で無理のない組織的な訓練などを地域ぐるみで継続的に進めることが望まれます。
- ・現在取り組んでいる「まちぐるみ健康づくり教室」を、リーダーを発掘・養成し、さらに発展させる必要があります。



### 3 地区で考えた地区の取組み

取組み

**1** 災害対策  
(特に弱者の救援対策)

- ◆マニュアルの作成  
(例)・近所で手助けをする人を決める  
・防災カードを作る
- ◆防災訓練の実施  
・案内チラシ・回覧による参加呼びかけ  
・関係団体の役割分担

**2** 地域で  
健康づくりをすすめる

- ◆町ぐるみ健康づくり教室の開催  
・高齢者世帯への呼びかけ  
・指導者の養成と発掘
- ◆和泉川縁でのウォーキング
- ◆身近な場所でのラジオ体操・太極拳などの実践
- ◆転倒骨折予防教室の推進

**3** 地域サロンの開催

- ◆参加者拡大の取組み  
・案内チラシ・回覧による参加呼びかけ  
・高齢者世帯への呼びかけ
- ◆宮沢会館での月に1回の開催

取組みの内容

取組みの体制  
(実施主体)

- ◆町内会・自治会単位  
・防災部  
・家庭防災部員
- ◆連合会  
・防災部  
・家庭防災部

- ◆町ぐるみ健康づくり教室  
・保健活動推進員  
・体育指導委員
- ◆ウォーキング・体操など  
・自主的活動  
・近所同士で始める
- ◆転倒骨折予防教室  
・地区と地域ケアプラザ  
・福祉保健センター

- ◆サロンふらっと宮沢  
(ボランティアグループ)  
・宮沢地区社協サロン部会(仮称)が応援

実施後の目標

- ◆年間計画の作成・実施  
・防災器具類、備蓄品の新規購入・更新

- ◆町ぐるみ健康づくり教室  
・開催回数を増やす  
・他の自治会にも広める  
・公園での健康づくり  
・高齢者向け器具の整備
- ◆ウォーキング  
・案内板で目標を定める
- ◆ラジオ体操など  
・公園での健康づくり

- ◆閉じこもりの予防
- ◆ボランティア活動の活性化
- ◆地区内の他の自治会館等にも広める

長期的課題の取組み

活動拠点となる多目的施設の整備

取組みの内容

宮沢町第二公園のプールの管理棟を年間を通じて使用し、多目的に使用可能な施設に改築する

取組みの体制  
(実施主体)

- ◆東山の水辺愛護会
- ◆東山ふれあい樹林愛護会
- ◆宮沢ひまわり会
- ◆子育てお母さんの集い
- ◆地区子連
- ◆子供会

実施後の目標

- ◆和泉川の川べりにビオトープをつくり児童が楽しめるようにする
- ◆子どもたちだけでなく、他所から訪れる人たちのために公衆トイレを施設内に整備する
- ◆ふれあい給食の場として、使用可能な厨房を備えた施設とする





## 1 地区の概況

- ・瀬谷区のほぼ中央に位置し、相鉄線や瀬谷柏尾線で相沢1～7丁目と瀬谷1～3丁目に分断されています。12地区で人口・世帯数とも2番目に多く、8の自治会があります。
- ・瀬谷駅から近く利便性が高いこともあり、地区センター、保育園、幼稚園、病院、福祉ホーム、作業所等多くの施設が地区内にあります。
- ・3区分の年齢構成は区平均とほぼ同じですが、65歳以上の高齢者の割合が2つの町で2割に達し、地区内でも差が見られます。
- ・高齢者対象の活動、子育て支援活動とも活発です。また、作業所の援助等を行っている団体が多いのが特徴となっています。

## 2 地区の主な意見

### 一人暮らし高齢者への支援

- ・一人暮らし高齢者の状況が、周囲からはわかりにくい現状があります。
- ・高齢者の実態を知るためには、普段からの近所づきあいが大切になります。
- ・民生委員等は個別に情報を集めて活動を行っていますが、地域で見守るためには、情報を共有する仕組みが必要です。

### 高齢者の介護予防

- ・元気であるけれども家から外に出る機会の少ない高齢者が出かけられる場が必要です。
- ・要介護認定を受けていない人たちへのサービスが必要です。

### 誰もが気楽に利用できる場づくり

- ・高齢者の生きがい活動をしたくても、遠いなど適当な場所がありません。身近にあれば活動が活発になります。
- ・縁側に集まるなど昔は自然にできていたことができなくなっています。高齢者が気軽に立ち寄れるような場づくりが望まれます。

### 地域で子育て支援

- ・地域で次の世代を担う子どもを育てていくことを考えていく必要があります。
- ・子育て世代と高齢者との交流が少なく、地域で機会をつくる必要があります。

### ごみ出しのマンナー

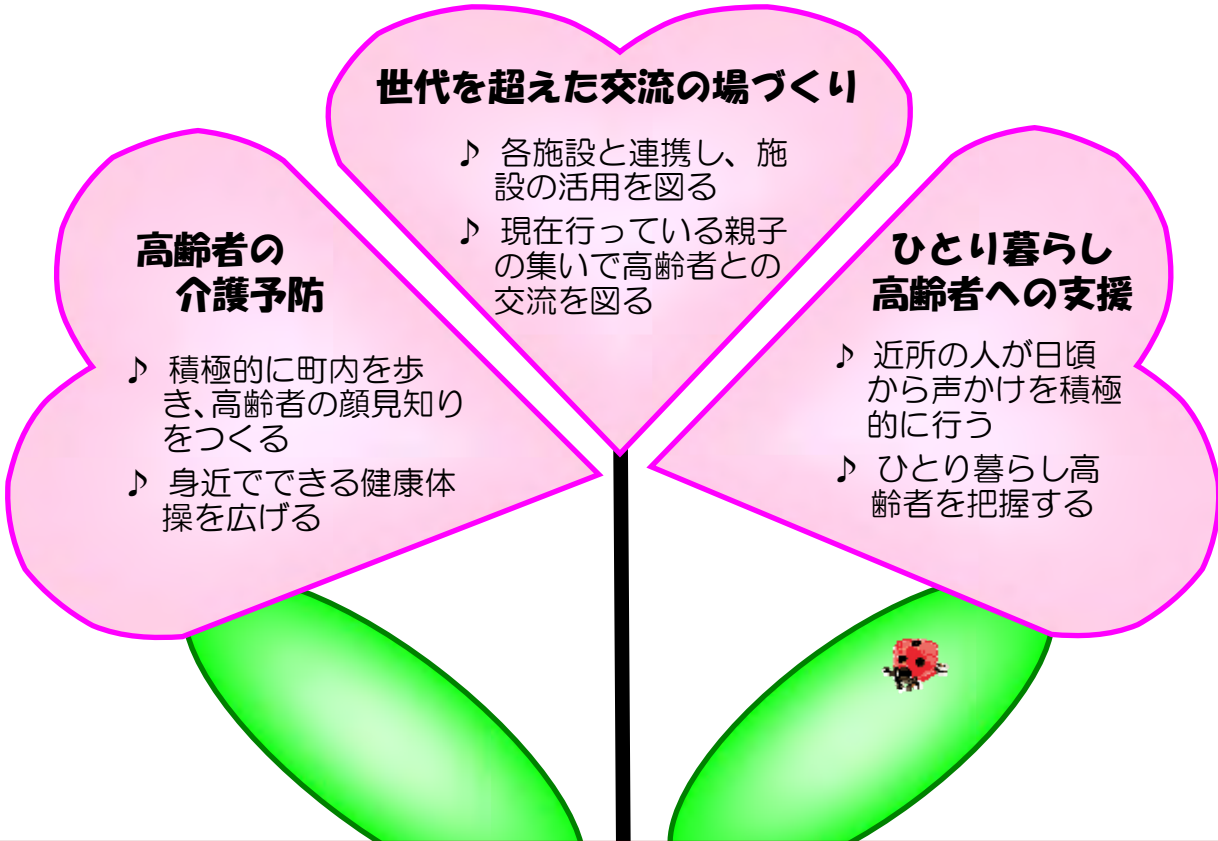
- ・ごみ集積所の管理が徹底されていません。
- ・分別が複雑になり、ゴミ出しのルールを周知することが必要です。



### ▶▶ 3 地区で考えた地区の取組み



#### 高齢者が元気で安心して暮らせるまち



#### 地域の団体の活性化

- ♪ 地域で活動している団体の把握と共有
- ♪ 参加の呼びかけ

#### ＜現在地域で活動している団体と活動＞

分野	事業	団体
子育て支援	わいわい親子会	民児協「子育て支援事業」
	「配食サービス」 火曜の会	配食サービスグループ
高齢者支援	ふれあい食事	相沢地区社協
	わかば会	地域デイグループ
	四季の会	ボランティアグループ